

令和 2 年度 第 3 回 くるめ支え合うプラン推進協議会 議事要旨

開催要領

- 1 日時 令和 3 年 3 月 1 5 日 (月) 1 3 時 3 0 分～1 5 時 0 0 分
- 2 会場 WEB 会議 (久留米市総合福祉会館 2 階集会室)
- 3 出席者 委員 1 8 名
佐藤(美)委員、江頭委員、豊福委員、縄崎委員、堤委員、津野委員、藤野委員、河口委員、村井委員、矢野委員、原口委員、高田委員、刈茅委員、濱崎委員、窪田委員、内藤委員、佐藤(寿)委員、渡邊委員
- 4 欠席者 委員 7 名
有川委員、坂井委員、橋本委員、森山委員、菊池委員、永野委員、田端委員
- 5 傍聴者 なし

次第及び議事要旨

- 1 開会
会 長 : 会議はオンラインでもできるが、プランの推進や重層的支援体制整備は、実際に顔を合わせることを求められることも多い。コロナで活動を止めてしまうと、これまで何とかつながっていた人との関係が切れてしまうこともある。できることをやっていく必要がある。
- 2 報告事項
 - (1) 令和 2 年度第 2 回協議会議事要旨について
※ 資料配布のみ
 - (2) 重層的支援体制整備事業について
【主な質疑応答等】
委 員 : アウトリーチ事業で、様々なところから支援につないでいくということであるが、学校の位置づけはどのように考えているのか。こども子育てサポートセンターは全ての小・中・高等学校と連携できているのか。学校と民生委員の連携は、校区によって差が大きいと感じる。
事務局 : 子ども分野とその他の福祉分野との連携は十分でないと感じている。重層的支援会議等には、支援関係機関の他、必要に応じて、学校や民生委員等にも参加してもらい、地域からの情報も共有できるようにしたい。

- 委員：問題が起きる前の対応、予防の視点も必要。地域の大人がどれだけ子どもに関われるかが大事だと思うが、現状では、地域側に子どもの情報が少ない。子どものケース会議に主任児童委員等が参加できるとよい。
- 事務局：先日、学校に対し、民生委員の役割等について説明を行った。今後も、学校と民生委員等との連携が進むよう働きかけたい。
- 委員：関係機関の中にDVの相談機関が入っていない。様々な相談に対し、ジェンダーの視点で発言できる人がいた方がよい。
- 事務局：社会福祉法上、介護・障害・子育て・困窮が中心となっているが、様々な課題が想定される。その他の機関とも、ケース毎に必要なに応じて連携していく。
- 会長：コロナ禍で女性の自殺者が増えている。様々な負の面が表出しているので、重層的支援体制整備事業の中で救っていただきたい。
- 委員：ある学校から、学校と民生委員の会議に、保護司も参加しないか、と提案を受けている。学校と地域との連携が進んできていると感じる。
- 委員：重層的支援体制整備事業の考えは素晴らしいが、実行するのは難しい。利害が相反するケースや本音を言わないケースも出てくる。適切に訴えを見極め、課題を解きほぐし、連携して課題を解決する必要がある。
- 事務局：絵に描いた餅とならないよう、本人・世帯を中心に、各機関がしっかりと連携して支援を行えるよう取り組みたい。
- 会長：重層的支援体制整備事業は、一つの問題を様々な角度から見ることができるようになるもの。中身・意味のあるものにしていただきたい。
- 委員：相談を受ける側の質の担保が重要。やっとの思いで相談をしたのに、最初の窓口でしっかりと受け止めてもらえなかったら、二度と相談しない。支援が必要な人の中には、相談先を知らない人、困っていることに気づいていない人も多くいる。そのような人たちを支援につなげることができるのは、民生委員や地域の人。地域との連携と相談しやすい体制の整備が重要。専門職の確保とアウトリーチの費用が必要ではないか。
- 事務局：相談を受ける側の質の担保については、研修等を実施して対応したい。地域の人が困っている人を相談支援につなぐことができるよう、参加支援や地域づくりに向けた支援に取り組む。
- 会長：資料3の「一旦受け止め、聞き取る」の「一旦」という表現が、後ろ向きに感じる。「まずは」等、前向きな表現に変更をお願いしたい。

(3) 再犯防止の推進について

【主な質疑応答等】

- 委員：初犯防止も大事。核家族化が進む中で、地域でいかに子どもたちを支え

ていくか。地域食堂（居場所）の充実や子ども会等の強化が必要。

委員：非行少年に話を聞くと、夜7～8時に寂しさを感じると話す。温かい夕食を人と一緒に食べることができずに寂しいようである。

会長：全国の子ども食堂を調査していると、毎日、親子で夕食を食べることができる食堂もある。子どもの寂しさを埋める活動・工夫は重要。

委員：成績を優先するのではなく、子どもがいきいきと成長できる学校・地域だとよい。教師や親に余裕がないが、子ども目線で接することが必要。

委員：他市で、子どもの居場所をつくっている例がある。久留米市でも公的につくれないか。

事務局：本市にも、子どもの居場所づくりの視点を持つ、子どもの学習支援事業やみらくるホームがある。重層的支援体制整備を進める中で、公のみでなく、民間の力も活かしながら、充実できるとよい。

委員：放課後等デイサービスの質に差があると感じる。充実できないか。

事務局：ご意見は行政内部で共有したい。

委員：放課後等デイサービスは、親が就労でき、良い面もあるが、本人も地域も、お互いに関係を切らないよう意識する必要がある。

委員：保護司の確保が必要。再犯防止に保護司が果たす役割は大きい。不登校の実態を把握して欲しい。不登校や非行を防止するために、子どもが学校内で気軽に相談できる環境の整備をお願いしたい。

委員：保護司は欠員が多い上、今後、大量の定年退職者が発生する。活動を周知し、住民の理解を得ていく必要がある。支援する中で、福祉的な支援が必要な家庭も多い。

3 協議事項

(1) くるめ支え合うプランの進捗状況について

【主な質疑応答等】

会長：計画周知の説明会の参加状況や反応はどうか。

事務局：参加者は1回あたり7～8名程度。校区福祉活動計画づくりに、校区全体で取り組もうとする前向きな反応が見られる。

委員：自治会の機能強化に取り組むべき。縦割りでない行政の体制づくりをお願いしたい。

事務局：大きな課題と認識している。平成24年には、市民活動を進める条例も制定し、自治会への加入を促進している。避難行動要支援者名簿の活用等を通し、隣近所の関係が、自分や周りの生活に必要なものであることを広めていきたい。

会長：市社協は、校区福祉活動計画づくりをどのように支援していくのか。

事務局：計画づくりのマニュアルを策定した。それを活用し、支援していく。

4 その他

委員：これまで、「みんなで」「手を取り合って」話し合いや活動を進めてきたが、コロナ禍では、それが悪いことのように言われる場面もある。コロナ禍でも停滞せずに活動していた人たちの意見を集めて欲しい。

事務局：本日の協議会をもって、今年度の協議会は終了。

5 閉会